

## 2019年度営業実績について

大洗鹿島線・鹿島臨港線を運行する鹿島臨海鉄道株式会社の2019年度営業実績が確定いたしましたのでお知らせします。

## 1. 旅客輸送人員

- 全体の旅客輸送人員は2,050千人（対前年度比97.1%）となりました。
- 定期旅客のうち、通勤定期は284千人（対前年度比107.5%）となりましたが、通学定期は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により3月2日から県立学校が原則休業したことなどの影響により、977千人（対前年度比96.1%）となりました。
- 定期外旅客は、秋の台風に伴う運休や新型コロナウイルス感染拡大の影響などにより788千人（対前年度比94.9%）となりました。

(単位未満切捨)

旅客輸送人員	定期旅客			定期外旅客	合計
	通学定期	通勤定期	定期計		
2019年度	977千人	284千人	1,262千人	788千人	2,050千人
2018年度	1,016千人	264千人	1,281千人	830千人	2,112千人
対前年度比率	96.1%	107.5%	98.5%	94.9%	97.1%

## 2. 貨物輸送量

- 全体の貨物輸送量は、武蔵野線や東北線の不通や、消費税増税の影響があったものの、トラックドライバー不足による鉄道貨物へのシフトなどにより、276千トン（対前年度比102.9%）となりました。
- 発送は、塩化ビニールが43千トン、合成ゴムが29千トン、樹脂製品が24千トンなど合計で184千トンとなりました。
- 到着は、工業薬品が11千トン、合成ゴム原料が10千トン、肥料が2千トンなど合計で92千トンとなりました。

(単位未満切捨)

貨物輸送量	発送	到着	合計
2019年度	184千トン	92千トン	276千トン
2018年度	179千トン	89千トン	268千トン
対前年度比率	103.2%	102.4%	102.9%

### 3. 決算の概要

#### (1) 営業損益

- 営業収益は、貨物運輸収入は対前年で増加したものの、旅客運輸収入は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による県立学校の休業などの影響により減少したため、全体では1,129,478千円（対前年度比98.9%）となりました。
- 営業費は、大洗鹿島線の編成減車により動力費が減少したものの、消費税増税に伴うシステム変更やレール交換などの修繕費が増加したため、全体では1,170,602千円（対前年度比100.9%）となりました。
- その結果、全事業営業損益は、△41,123千円となりました。

#### (2) 経常損益

- 営業外損益13,694千円を加えた経常損益は、△27,428千円となりました。

#### (3) 当期純損益

- 法人税等を減じた当期純損益は△30,532千円となりました。

（単位：千円・%/単位未満切捨表示）

	2019年度(A)	2018年度(B)	増減(A)-(B)	比率(A)/(B)
営業収益	1,129,478	1,142,433	△ 12,954	98.9
営業費用	1,170,602	1,159,600	11,001	100.9
営業損益	△ 41,123	△ 17,167	△ 23,956	-
営業外収益	15,027	23,537	△ 8,510	63.8
営業外費用	1,332	1,421	△ 88	95.0
経常損益	△ 27,428	4,949	△ 32,378	-
特別利益	97,064	114,242	△ 17,178	85.0
特別損失	97,064	114,242	△ 17,178	85.0
法人税等	3,104	10,116	△ 7,012	30.7
当期純損益	△ 30,532	△ 5,167	△ 25,365	-

新型コロナウイルス感染拡大により厳しい経営環境が見込まれますが、鹿島臨海鉄道株式会社では「輸送の安全確保」、「お客さまの求める質の高いサービスの提供」、「地域との連携・共生」の3つの基本的な考え方のもとに、経営目標である『持続可能な経営基盤の確立 ～地域に信頼される鉄道を目指して～』の達成に向け、今後とも全社一丸となって取り組んでまいります。

<お問い合わせ先>

鹿島臨海鉄道株式会社

総務部財務課

TEL：029-267-5200